
ポケモン不思議のダンジョン ～チーム・エリスの探検～

knowledge emotion willpower

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン不思議のダンジョン ～チーム・エリスの探検～

【Nコード】

N9632P

【作者名】

knowledge emotion willpower

【あらすじ】

プロローグ

アリス「ん～～～～。。。。うん……。…やっぱりだめだな～～～～。。。。」

あ、私、アリス！！アチャモのアリスよ！！

私ね、ギルドの探検隊になろうと思ってるんだけど…。

どーも建物自体に入れそうにないのよね…。

うん…、どーしようかなあ…。

タッタッタッタッタ…。

あれ？ 向こうから、誰か来る！

ピンク色の…誰だろ…？？

プロローグ（前書き）

みなさんこんにちわ！

knowledge emotion willpowerです。

（長くてすいません；

今回は、「ポケモン不思議のダンジョン時、闇、空の探検隊」を元に構成しています。面白い？と思うので、是非読んでみてください
^^

by knowledge emotion

willpower


~~~~~!~!~!~!~!~!~!~!~!~!

アリス「え……ええええええええええつ！？！？！？！？！？」

**ドオオオオオンッッッッッ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！**

ピンク色「……いったああゝ……あ、ご、ゴメン、アチャモ！」

アリス「…え？え…エネコ…？」

ピンク色「はっ！？え、エネコ！？私、エネコじゃなくてにんげん……って、アアッ！！」

アリス「ひええっ！！！！な、なによ……」

ピンク色「あ、アチャモが…っ！アチャモが…、喋ってるうううう  
！！！！！！！！」

アリス「は……はあ？？」

ピンク色「ちよつと！あなた、本当は人間で、アチャモのコスプレでもしてるんじゃないのっ！？」

アリス「はああつ！？ちよつと！何よ失敬な！私はれっきとしたアチャモで、アリスって言うのよ！」



エネコ「へえ、そんで、その『ものすごいおおおいもの』って、何処にあるの？」

アリス「分かんない。伝説だから、本当かどうか分らないし、その守ってるポケモン達だって、本当にいるか分らないし。」

エネコ「へえ……。あ、私、エリカ！とりあえず、名前だけ教え説いてあげるわ！（まあ、ホントは名前と、人間だったことしか覚えてないんですけどね……。）」

アリス「うん。ありがとう。……ねえ、探検隊……、やってみたいと思わない……？」

エリカ「え？」

アリス「ほら、これ。」

アリスは持っていた石を見せた。

アリス「これ、私が昔、この奥の洞窟で拾った物なの。ずっとお宝として、持っていたのよ。」

エリカ「……へえ……。でも、なんでその石？」

アリス「ほら、ここに、凄い模様があるでしょ？」

エリカ「あ……、ホントだわ。……あ、なるほど、それで探検隊になって、その謎を突き止めたいわけね？」



アリス「どんぴしゃり。ギルドに入って、謎を突き止めるの!!」

エリカ「ギルド?」

アリス「!!あ、そうだ! エリカは、元人間って言ってたよね?」

エリカ「え...? そ、そうだけど...」

アリス「じゃあ、プクリンに言っ、何か分かるか聞いてみない?」

エリカ「プクリン??」

アリス「そう! ギルドの親方よ。すっごい物知りなんだけど...」

エリカ「だけど?」

アリス「...あつ、ちょっとね!!」

エリカ「探検隊ね。まあ、私、人間だった事と名前以外、なあんにも覚えてないし、やっても良いかな...」

アリス「!!!! 本当!?!? いいのっ!?!」

エリカ「ええ。やってる中で、何か見つかるかもしれないし。」

アリス「やったあっ! ヨロシクね、エリカ!!」

エリカ「うん、ヨロシク^^」

アリス「（エリカって、さっきの高飛車態度、何処言ったのかしら  
…？まあ、いっかつ！）」

こうして、エリカとアリスの冒険は始まるのだった。

おめでとう！チーム・エリス結成！！（前書き）

探検隊をやるということになったアチャモのアリスと、元人間のエネコ、エリカ。

アリスがギルドに入りたいというので、ギルドに行ってみた2体だけど…？

おめでとう！チーム・エリス結成！！

アリス「んゝ…、やっぱりここは、何度来ても緊張するわね…。」

エリカ「え？どうして？」

アリス「え？もしかして、エリカ緊張しないタイプ？」

エリカ「んゝ…。どちらかというと、しない方だと思うわ、自分の…。」

アリス「いいなあゝ…。どうしたら緊張しないですむのかしら…？」

エリカ「…それで！アリスはここに入るために来たんじゃないの？もうここにきてから30分たつけど？」

アリス「えっ？あ、う、うん…、そう…だけど…。」

エリカ「じゃあ、早く言った方がいいと思うわよ？ここでボーッとしてても、何の解決にもならないわ。」

アリス「んー…、まあ、そうなんだけど…。」

エリカはあまりにもアリスがもじもじしているので、ついにイライラしてきて、こう言った。

エリカ「ちよつとアリス！あなた、ここに入りたくってきたんでしょ！？一人だったら出来ないけど、私と一緒にしたら出来るって、ここに来たんじゃない！入らないならあたし、帰るわよ！？」

アリス「ええっ！？ちよつと待ってよ！私だつて入りたいけど…、でも…、緊張し…」

エリカ「もういいわっ！あたし、あなたと探検隊何かしない！こんなウジウジした子なんて、チーム組んだら絶対疲れるもの！！」

アリス「ええっ！？そ、そんな言い方…」

エリカ「あるわ！」

エリカはキツパリと言った。

エリカ「私、さっき思い出したの。人間だったとき、もじもじしてたりするのがいっちゃん嫌いなんだって！」

アリス「……………」

エリカ「あなたがこんな子だとは思わなかった！もうちよつと出来る子だと思ってたのに…。見損なつたわ！じゃあねっ、もう会ったとは、あなたが変わらない限り、きつとないと思うわ！」

アリス「えっ！？ちよつと待って…！」

エリカはかなり足が速いようで、さっさとアリスの前から去ってしまった。

アリス「……………エリカ……………。そんな言い方ないと思うわよ……。確かに私は気が弱いし…、物事がハッキリ言えなかったりするかもしれない…。でも…、でも…、そんな言い方……

..... 2 .....!

アリスはそう言いながら、その場から少し離れて、海を見ながら思っていた。

そんな中で、アリスは泣きそうになった。でも、今までのアリスとは、何かが違った。

アリス「……………ダメよ！ここでもし泣いたら、…もしかしてエリカが、何処かで私のことを見てくれて、また後で言われるかもしれない…！」

アリスは泣きそうなのを我慢しながら、ギルドの入り口へと向かった。

アリス「……………よおしっ……………!!!!」

タツタツタツ  
.....

アリス「こんにちは！あ……あのっ！弟子入りしにk……」

「侵入者発見！侵入者発見！！！」

アリス「うぎゃあああああ ああああ ああつっ！……！！……！！……！！」

「誰の足跡！？誰の足跡！？」

「????」……足跡は…、アチャモ!!!!足跡はアチャモ!!!」

アリス「ひ…ひええええ…!な、なにこれえ…!?!」

アリスが下を見ると、何かが居る。

「???」アチャモさん、ご用件は!?!」

アリス「はっ!?!」

「???」私の名前はペラップ!」

中からペラップと名乗ったポケモンが出てきた。

アリス「あっ!は、はいっ!あの!あ、初めまして!あの…。」

ペラップ「ん~~~~~?」

アリス「……………あのお……………?」

ペラップは、アリスの顔を思いつきりのぞき込んだ。  
そして、

ペラップ「怪しい者じゃないみたいだね。でも、何の用だい?勧誘やアンケートなら、うちはお断りしてるんだ!さ、とっとと帰った帰った!」

アリス「勧誘!?アンケート!?ち、ちちちち、ちがいますうつ!あの、あの、私、その……………!」

ペラップ「勧誘じゃないのか?じゃあ何だ?新しい会社のセールス

マンか？」

アリス「だから違いますってば！あの、その……………」。

ペラップ「もっ！もつとハッキリ言ってくれよ！こっちは忙しいんだ！あと5秒以内に言ってくれないと、強制的に追い出すよ！？」  
5…………4…………3…………」

アリス「あーっ！待ってください！あの、ここに弟子入りしたいんですー！」

ペラップ「……………へっ！？」

アリス「……………あ、あの、ダメ……………ですか…？」

ペラップ「うゝ ああああああぁあつー！！わたしや耳が遠くなっちまったよー！！オイオイオイオイオイオイッツツ！！……………」

アリス「ち、ちよつと……………！！！！！！（この人何処までおつちよこちよい？なのよっ！！もおー！！）私は本気で言ってるんですー！」

ペラップ「オイオイオイオイオ……………お、お前…、本気で言ってるのか…？」

アリス「誰がうそつきに此処までくるのっ！本当ですってー！」

ペラップ「あ…ああ…（な、何イイイツ！？ほ、本当だとおっ！？…何と言っことだ！…いや、そりゃ、新入りが来てくれるのは、もちろん有り難いしうれしいし、大歓迎だし、未来の平和にもつな





アリスがうるちよろしている間に、エリカはもう入隊届けを出して、あとで連れが1体来ると言っただった。

アリス「エ…エリカ…！」

ペラップ「ああ、ピンク色！そのオレンジか、連れというのは。」

エリカ「ちょっとペラップさん！ピンク色じゃなくて、エリカだって言ってるでしょ！？しかも、その

子はオレンジ色じゃなくて、アチャモのアリスよ！」

アリス「…良かった…！」

エリカ「え？」

アリス「…だって、もう絶交されちゃったと思ってたんだもの…。でも、来てくれたんだ…！」

エリカ「え？ちょっと！あたしは約束は破らないわよ？だって、海岸で約束したでしょ？一緒に探検隊やるって。それに、貴方が変わってくれたから、また再会したのよ！」

アリス「ありがとう、エリカ…！」

エリカ「まあ、今度からはちゃんと一発で決めてね？じゃないと、今度こそはホントに絶好よ？」

アリス「分かってるわよ！エリカ…！」

ペラップ「…で、取り込み中の所悪いんだが…」

???「やあ 君たちが新しくギルドに入ってきた子達だね？僕は親方のプクリン！よろしくね！友達、友達」

エリカ「よろしくね」 親方「 親方」

アリス「（…エリカって、すごい大人っぽいところもあるけど、すっほい高飛車なところもあるけど、すごい幼いんだよね…。ほ





全頁「おおー」  
「...」

おめでとう！チーム・エリス結成！！（後書き）

どうも、knowledge emotion willpower  
です！

ふゝ、長かった！

エリカ「長すぎよっ！」

アリス「疲れたゝゝ。」

ゴメンゴメン^^；

では、次回をお楽しみに！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9632p/>

---

ポケモン不思議のダンジョン ～チーム・エリスの探検～

2011年1月9日06時48分発行